

# 地震・津波の 教訓忘れるな

# 県立こども病院 移転計画は撤回を



全県から重病の子どもが運ばれてくる  
県立こども病院を、今の神戸市須磨区から、  
人工島であるポートアイランド(ポァイ)へ移転する  
県の計画に、不安や反対の声が広がっています。



## 大震災の教訓を無視

阪神・淡路大震災発生時、ポァイはほぼ全島が液状化。「陸の孤島」となり患者受け入れが不能となりました。ここには神戸中央市民病院もあり、もし災害時にどちらも機能不全に陥ればたいへんです。

また、東日本大震災では、津波で浸水した沿岸部の病院は機能が果たせなくなりました。災害時に機能が発揮できるよう安全な場所を選ぶことが、大震災の教訓です。

## こどもに開発失敗のツケ回し、 危険にさらす

移転の予定地は、ポァイの「医療産業都市」の中。医療をもうけの対象にし、開発の失敗で売れ残った土地を「活用」する計画です。

周辺には、「ボツリヌス菌」「狂犬病菌」などの細菌やウイルスを扱う研究所があり、免疫力の弱い子どもを危険にさらすと医療関係者から強い批判の声があがっています。

## 県民合意のない移転先

ポァイへの移転には、県医師会・神戸市医師会が強い反対を表明。医療関係者だけでなく広範な県民から反対の声があがっています。

もともと、移転場所の選定について県が県民に意見を求めたことは一度もなく、強引に計画を進めることは許されません。



こども病院移転問題で意見交換(6月19日 県政懇談会)

## 力をあわせて計画撤回を 求めましょう

日本共産党県議団は、議会質問などで、問題点を繰り返し指摘し、計画撤回を求めています。6月議会では、「移転計画撤回」の請願採択を求め、力をつくしました(1面参照)。

老朽化した病院の建替えは必要ですが、安全な場所であることが大切です。ごいっしょにポァイへの移転計画は撤回させましょう。

## 負担増に悲鳴! 医療費助成の所得制限強化

県は、7月1日から、子ども・障がい者の医療費助成の所得制限を強化。そのため助成を受けられなくなった人から「1回800円の負担がいきなり3割に。障がいのためにケガしやすいのに」などと悲鳴があがっています(市町によっては、独自助成で、負担が増えないようにしたところもあります)。



医療費完全無料化こそ子育ての願い「所得制限なんてもってのほか」(6月14日 女性団体のパレード)

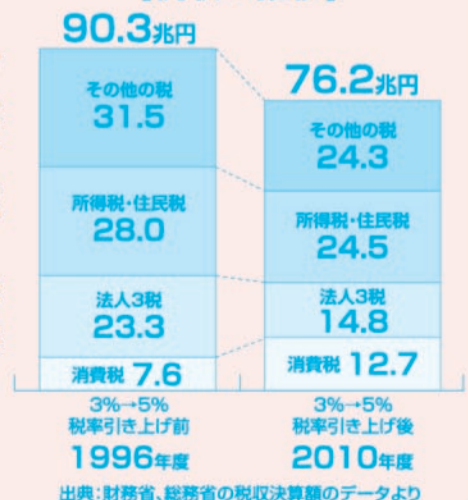
## 消費税増税は景気も財政も 家計もこわします

「景気が悪いのに、消費税を上げるべきでない」。県内でもこんな声があがっています。自腹を切って消費税を納めている中小業者も死活問題。自治体病院も「10%なら経営できない」(全国自治体病院協議会が、874の会員病院を対象に緊急に行った調査より)。

井戸知事は、消費税は「地方の自主的な財源になりえる」と税率アップを主張していますが、消費税を増税しても、税収は増えません(グラフ)。

日本共産党は、消費税増税なしで財政再建を行う独自の対案を出しています。

【税収の推移】



日本共産党の「提言」

検索